

2024年度 第一回須坂市環境審議会 議事録(要旨)

【日時】 2024年7月30日(火) 午後2時～午後4時

【場所】 須坂市消防本部3階大会議室

【参加者】

〔出席委員〕:中村正、山岸和人、中島秀樹、竹前美枝子、師岡京子
宮下佐知子、早川隆一、杉本淳、中屋眞司、
山下浩史、西原秀次、穂刈哲明、杉田恵美子

〔欠席委員〕:山下徹也、山崎洋、飯尾昭一郎、河原輝久

〔事務局〕:荒井市民環境部長、田幸生活環境課長、新井清掃センター所長
塚田課長補佐兼環境政策係長、元田課長補佐兼エコパーク振興係長、
宮沢清掃センター所長補佐、眞島環境創出係長、田村廃棄物対策係長、
中西主査、業田事務員

【配布資料】

- ・須坂市環境審議会委員名簿
- ・第三次須坂市環境基本計画(本編・資料編)※新任委員のみ配布
- ・資料1 須坂市環境基本条例
- ・資料2 須坂市環境行政の概要
- ・資料3 第三次須坂市環境行動計画施策一覧表(事前配布資料)
- ・資料4-1 須坂市地下水の保全及び適正利用に関する条例 フローチャート
- ・資料4-2 地下水位測定結果 地表面～地下水面(R4.4～R6.6)
- ・資料4-3 地下水位測定結果 地下水位標高(R4.4～R6.6)
- ・資料5 し尿処理手数料改定の検討について

1 開会(事務局:田幸課長)

2 あいさつ (事務局:荒井部長)

3 委員の紹介及び職員の自己紹介(進行:田幸課長)

4 役員の選出について(進行:荒井部長)

会長に中島秀樹委員(須坂市区長会副会長)、副会長に竹前美枝子委員(須坂市女性団体連絡協議会)を選出。

5 議 事(進行:中島会長)

(1) 須坂市環境審議会の任務等について

資料1に基づき、事務局より説明。質疑なし。

(2) 須坂市の環境行政について(事務局:各課長補佐及び係長)

資料2に基づき、事務局より説明。これに対し委員より次のような意見があった。

委員:河川水質測定を実施しているとのことだが、地下水については水質測定を実施しているか。また、公害苦情で水質汚濁の項目があるが、どのような内容でどう対処しているか教えてほしい。

事務局:地下水については7か所の井戸と2か所の湧水の調査をしている。井戸は地表から地下水面までの地下水位を計測し、採水可能な井戸と湧水ではpH、水温、電気伝導度を測定している。

次に、水質汚濁の例として、自動車事故により付近の側溝にエンジンオイル等が流出した場合や、家庭から不注意等で灯油を用水路に流してしまった場合が挙げられる。(議事録補足:上記のような水質汚濁事故では、消防本部が出動し、油を吸着するマット等を使用して対処している。)

委員:須坂市では標高の高い場所に上水道水源があると思うが、その水質測定は実施しているか。また、そこでは有機フッ素化合物の検査は実施しているか。

事務局:峰の原高原の上水道供給水源では、毎月水質測定を実施している。また、有機フッ素化合物の検査を実施した結果、該当する物質は検出されていない。

委員:希少生物であるスギナモについて、地区の川掃除等で除去されてしまうことがあるが、啓発活動等は実施しているか。また、生活環境課で作成したスギナモ紹介の看板について、どの程度の数を設置しているのか。

事務局:スギナモが繁茂した用水路から溢れた水が流れてきて苦慮しているといった相談を受けたことがあるが、希少生物なのでなるべく保全してほしい旨を伝えている。また、看板については県から希少生物の生息地を安易に公開しないよう指導を受けたことがあるため、随時撤去している。生活環境課で把握しているスギナモの生息地点は30か所程度である。

委員:10年前と比較してごみの分別意識は向上していると思うが、ごみの量がそれほど変わらないということは、ごみの量は増えているのではないか。分別が進んでいるのに総量が増える原因を追求していかないと実質的なごみの減量にはつながらないと考える。

事務局:非常に重要なことだと思うので、原因の分析等してごみの減量につなげるようにしていきたい。

委員:故障中の水車について、故障の原因は何か。

事務局:機器の老朽化によって故障している状況である。

委員:グリーンカーテン事業とノーマイカーデーの推進について、具体的にどのような取り組みをしているか教えてほしい。

事務局:グリーンカーテン事業は、6月に開催された須坂ファミリーフェスティバルにて、来場者にゴーヤの苗を無料配布した。ゴーヤを日除けになるように自宅で育てることで冷房機器の使用抑制につなげる狙いがある。今年度の実績として、100株配布した。

ノーマイカーデー推進の取組として、市役所職員を対象に公共交通機関の利用や徒

歩、自転車等による二酸化炭素排出が少ない手段での通勤を呼び掛けた。

委員：職員が対象とのことだが実績としてはどうだったのか。

事務局：目に見えて大きい成果が出るものではなかった。

委員：市役所前拠点回収について、回収されたものがどのように利活用されているか周知すればもっと多く回収できるのではないかと思う。回収後の用途がわかればこの機会に説明してほしい。

事務局：古布は主に工業用のウエス(工場等で機械を拭く布)になる。以前は東南アジアへ再利用目的で送っていたこともあった。硬質プラスチックは破碎してペレット状にした後に、医療用廃棄物を入れる箱や樹脂パレットになる。陶磁器は破碎後、再度陶磁器の原料として利用される。

委員：個別案件ではあるが、米持地籍の水質汚濁問題について現状と指導状況を教えてほしい。

事務局：指導権者である県と連携して指導にあたっている。問題となった事業者についても排水の浄化設備を導入する等して改善に向けた努力をしてもらっている。また、地元と事業者で公害防止協定を締結して工場見学会を実施している。

(3) 須坂市環境行動計画について(事務局：各課長補佐及び係長)

資料3に基づき、事務局より説明。これに対し委員より次のような意見があった。

委員：学校教育における環境学習の推進と協力の項目について、長野県地球温暖化防止活動推進センターでは小中学生向けに2050年信州ゼロカーボンチャレンジを実施している。テキストを無償配布して、参加賞や教材費の補助をしている。去年は日野小学校で実績がある。教育委員会等を通じて実施の調整をしてもらいたい。

委員：剪定枝の処理について、無料で引き取ったものをたい肥化するといった取り組みはごみの減量につながり、他自治体と比較して先進的であるため環境行動計画に組み込んだ方がよいのではないか。また、市の取り組みとして、例えば非化石証書の購入等といった二酸化炭素削減の項目も入れるべきだと考える。
全体的な話ではあるが、2025年秋からイオンモールが開業するにあたり、見直すべき項目も多くあるのではないかと思うので検討してほしい。

委員：2030年度の目標値について、現時点で達成している項目については上方修正した方がよいのではないか。

事務局：来年度に中間見直しを予定しているのでそこで検討、対応できればと考えている。

委員：須坂市の温室効果ガス排出量について、全体の排出量は減少している中で運輸部門は増加しているように見えるが、この点について説明してほしい。

事務局：数年前に統計の集計方法に変更があったようで、産業部門の排出量の一部が運輸

部門に組み込まれたと思われる。このため運輸部門の数値が増加している。

委員：高山蝶保護パトロールについて、指導した事例はあるか。

事務局：以前指導員から聞いた話によると、バッグ等の中に隠して持ち帰ろうとしていたため放すよう指導した事例は複数あるとのことだった。疑わしい事案についてはなかなか強く追及できない点が難しいとのことだった。

委員：パトロール実施によって抑止力につなげてほしい。

委員：クールチョイスは終了したキャンペーンという認識だが、記載を変更してほしい。

事務局：現在はクールチョイスにあたるものがデコ活という取り組みに変更されているので、中間見直しで対応したい。

(4) 地下水位の測定状況について(事務局：塚田補佐)

資料4-1に基づき、須坂市地下水の保全及び適正利用に関する条例の概要を説明。また、資料4-2及び資料4-3に基づき、市内モニタリング井戸の地下水位測定結果について事務局より説明。これに対し委員より次のような意見があった。

委員：市全体の年間揚水量上限 1,000 万 m^3 に対して、現状どの程度の揚水量か。

事務局：現時点で年間約860万 m^3 である。

委員：これまでの地下水位観測資料を見ると、季節変動はあるが安定しているということが読み取れる。次回からでよいが、観測井戸及び湧水の位置図、過去の地下水位測定の記録との比較資料があるとよりコメントしやすい。また、位置図を作成したら、過去測定記録の等高線と合わせた資料があるとありがたい。

事務局：そのように対応したい。

(5) し尿処理手数料の改定について(事務局：田村係長)

資料5に基づき、事務局より説明。これに対し委員より次のような意見があった。

委員：本件について、次回の環境審議会にて意見質問等する認識でよいか。

事務局：その通りである。

(6) 指定ごみ袋の容量について(事務局：田村係長)

事務局より指定ごみ袋の容量について、現行容量(30L、15L)よりも少ない容量を求める要望が市民からあった旨を説明。次回環境審議会にて意見聴取する旨を案内した。

6 その他

清掃センター解体の進捗状況を事務局より説明。質疑等無し。

7 閉会

以上